

2025 年度ドイツ語ドイツ文学コース修士課程研究指導

山本 浩司 （教授） 20 世紀・21 世紀ドイツ文学

Arne Klawitter （教授） ドイツ近現代文学、文学理論

武田 利勝 （教授） ドイツ近代文学、思想

室井 禎之 （教授） ドイツ語学、言語学

ドイツ語ドイツ文学コース修士論文／博士論文題目 （2019～23 年度）

2019 年度 修士論文題目

- * コーネリア・フンケによる現代の児童像表現について
- * 遊びという概念
- * 「再生」のメランコリー-「蓄音機小説」としての『魔の山』

2019 年度 博士論文題目

- * 「一冊の、ささやかな、本」-ヴァルター・ベンヤミン『1900 年ごろのベルリンの幼年時代』研究
- * ニーチェにおける「生理学」-彼の文化的「戦略」として

2020 年度 博士論文題目

- * 救済のイコノロジー-ハンス＝ユルゲン・ジーバーベルク『ヒトラー、ドイツ生まれの映画』における表現のスタイルと観客の役割

2021 年度 修士論文題目

- * 『パルジファル』の地平ー「Mitleid（共苦）」の思想
- * 文構造の複雑さと第二言語習得
- * Irgendwann muß man springen ーイルゼ・アイヒンガーの作品における「跳躍した」語り
- * インゲボルク・バッハマン『猶予された時』ー停止する円環運動
- * ハンザ商人書簡の言語学的研究ーフェッキンフーゼン書簡における語形と法

2022 年度 修士論文題目

- * 流れ去る父、輪に休らう母、まだ見えない子ーヘルマン・ブロッホ『魅惑』における「わたし」とギッソンの共闘について

2023 年度 修士論文題目

- * 言葉の背後の暗い領域
- * 「ある生の状態」を作り出す有機的な「状態」劇
- * G. ビューヒナー『レンツ』における動的美学

【問い合わせ】

ホームページ <https://wasedadokubun.weebly.com>

ドイツ語ドイツ文学コース室

33 号館 6 階 601 研究室 月～水午後開室

メール: dokubun_la(at)list.waseda.jp